

一般質問原稿

この数ヶ月の国内外の様相は、正に目を覆いたくなるような問題が頻発しております。農水省の関連した事故米の流出は、善良なお菓子メーカーや、酒造会社の信頼を失墜させました。

その影響は鹿児島県の焼酎界全体の信頼をも損ね、都会の酒屋さんの棚から、鹿児島県銘柄の焼酎が下ろされているという情報もあります。鹿児島県の名前そのものにも泥を塗られた感が否めません。

また、厚生事務次官OBを狙った日本の事件は、何の罪もない人間への冒涇であり、震撼させられるものでありました。インドのテロ事件に至っては、発展途上にあったインドの国益が大きく損なわれたばかりでなく、相変わらずテロ組織が暗躍しているという現実を突きつけられました。安心して海外に飛び立てるのか、といった疑心暗鬼の気分させられております。

さらに、アメリカのサブプライムローンに端を発した世界的な経済不況は、日本をも巻き込み、大手自動車業界の相次ぐ雇用人員削減が打ち出され、その裾野にまで影響は及び、1950年代の石油ショック以来の大問題とされております。大幅な雇用削減は、深刻なものがあります。

このように、今年も様々な事件や難題を孕みながら、暮れていきますが、日本のスポーツ界でプロテニスの錦織選手18歳、プロゴルファーの石川遼選手17歳の笑顔が、せめてもの慰めとでも言えるでしょうか。このお二人の活躍は、景況感の著しい悪化に喘ぐ国民に、せめてもの希望を抱かせてくれました。

さて、本日壇上に立ち、岩切市長、上屋教育長と議論できることは大きな喜びであります。私自身、初心に返り、市民の皆さんの声を代弁して参ります。市民の皆さん、市長、教育長はもとより、市職員の皆さん、同僚議員の皆さん、以降4年間、よろしくご指導下さいますよう、この場をお借りしてお願い申し上げます。

今回は、岩切市長には「地域格差の解消」について、上屋教育長には「教育委員会のマニフェスト作成」についてお伺いします。

先ず、「地域格差の解消」についてお伺いします。

実は、去る10月9日に川内青年会議所主催で行われた「薩摩川内市の明日を語る・ローカルマニフェスト型公開討論会」に参加させていただきました。市長候補予定者4名の内3名が参加され、コーディネーターの突っ込んだ質問にそれぞれが熱く語られる様子を拝見させていただきました。

3名ともマニフェストを公開され、それに基づいた回答をされておりましたが、岩切市長候補は要求された個別テーマ1番目の「行財政改革の具体策優先順」として、①市政改革及び財政健全化の推進②職員の定員適正化③スピーディで品質の高い行政サービスの提供、を掲げられました。

個別テーマ2番目の「経済活性化の具体策優先順」としては、①農林水産業の流通対策②商工業の振興③中心市街地の再生、を掲げておられました。

さらに「個別テーマ1番目、2番目以外の重要課題」として、①過疎・辺地地域における集落再生活動の支援②甕島地域の振興③都市ブランドの構築を掲げられ、それぞれいつまでに達成するかを期限を示し、また事業費やその財源まで示されておりました。

岩切市長誕生後、薩摩川内市ホームページに一体どのような形で、市長のマニフェストが掲載されるものかと注目しておりましたが、11月17日付けで、ようやくお目通りが叶ったところであります。

ホームページに掲載された市長のマニフェストは、この公開討論会のものより、随分整理、細分化された形になっております。達成年度については、公開討論会の資料では「3年～4年以内に達成」とするものが多かったのですが、新しいマニフェストでは「すぐやります」「2年以内にやります」などと変化しており、岩切市長の勢いとやる気を感じ取ることができます。

私の注目していた「集落再生活動の支援」の中の「交通・通信など」の地域格差解消は「2年以内にやります」とされております。また、「過疎・辺地・甕島地域における自然や営み等を後世に引き継ぐため、総合的な振興策を策定します」という件は「すぐやります」と掲げられております。選挙を通じて地域を見ることにより、岩切市長とされましても、過疎地域・辺地地域・甕島地域の再生は急を要する、とお考えになった証かも知れないと、考えているところであります。

私自身、可能な限り選挙カーを走らせ、住居のある祁答院地域はもとより、薩摩川内市内の各地の現状を見て回りましたが、過疎地域・辺地地域であった旧4町は当然なこととして、旧川内市の中にも、疲弊した過疎・辺地地域があることをつぶさに理解しました。これからの行政は、これらの地域に光を当てなければならない、と痛感したところであります。

そのような観点から、岩切市長のマニフェストには同感するものであります。

さて「地域格差の解消」については、私自身、3月議会で、時の森市長に質問しております。その折り、「過疎対策は薩摩川内市の至上命題である」と提言させていただきましたが、岩切市長に於かれましても、「集落再生活動の支援」という形で、過疎・辺地・甕島地域の再生に力を注ごうとされていることが分かります。

そこで今回は具体的な事例について、質問いたします。

現在、巡回バスに関してアンケート用紙が配布され、利用状況等について調査が進められていますが、「利用度の少ない路線バスは廃止されるのではないかと危惧される方がおられます。限界集落と言われる地域では、「巡回バスが廃止になれば、生活することが難しくなる」という嘆きが聞こえます。この声を無視できません。市長のお考えをお聞かせ下さい。

また、情報通信格差に関して、ブロードバンド化、携帯電話の不感地域の解消、地上デジタル放送開始への対応などについても、3月議会で質問させていただきました。当局とされましても、ブロードバンド化については、総務省の示す「次世代ブロードバンド戦略2010」に向けて努力されていると思いますが、携帯電話の不感地域解消や、地上デジタル放送の試験放送などを経て、以前質問させていただいてから、ある程度前向きな展開になったことと思います。これまでの努力の経緯と結果、今後の見通しについてお伺いします。

さらに、「過疎・辺地・甕島地域における自然や営みを後世に引き継ぐため、総合的な振興策を策定します」とマニフェストでは掲げてありますが、少子高齢化・担い手不足に喘ぎながらも、山林・田畑・海岸等の自然環境を守っておられるそれぞれの過疎・辺地・甕島地域に対して、どのような内容で手を差し伸べるお積もりかお伺いします。

次に、上屋教育長に「教育委員会のマニフェスト作成」についてお伺いします。

つい最近まで、薩摩川内市の教育に係わってこられた教育長でありますので、合併後4年間の薩摩川内市の教育について、細かなことは申し上げませんが、敢えて言うなら、小中一貫教育の推進、薩摩川内元気塾など県下でも胸を張れるユニークな教育行政が進められていることだけは確かである、と申し上げたいと思います。

旧1市4町4村の独特な歴史、文化、伝統を背景にして、それぞれの地域で繰り広げられてきた教育行政を一体化するという事は、並大抵のことではありませんが、この4年間、前教育長を中心にされ、教育委員会としては頑張っただけでございました。

私自身、折に触れて教育問題を取り上げ、議論させていただき、的確なお答えを頂いて参りました。主に、小中一貫教育、ゆとり教育、学力向上策などの教育内容が多かったわけではありますが、何度か質問の結びに「教育マニフェストの作成」を訴えてきました。教育部局が市長部局とは独立した形で教育行政を進めるという観点から、教育マニフェストを示すことは重要であると考えたからであります。

因みに、改選前の議会としては、市長の施政方針表明と同様、教育長の「教育施政方針」を求める声もあります。私は、教育施政方針を構築する元になるのが、マニフェストではなかろうかと考えますが如何でしょう。市長部局に、市長のマニフェストがあり、また市の総合計画があるのと同じ理屈であります。

前教育長が副市長となられ、市長部局との折り合いも可能なことでもありますし、相当踏み込んだ予算折衝も可能なはずであります。ここはしっかりと「教育委員会のマニフェスト」を立ち上げるチャンスではないか、とも言えます。

そのマニフェストに基づいた各学校の経営方針も、より実りあるものになるのではないかと考えます。

薩摩川内市の小中学校の年次的な教育環境の整備が図られ、また、義務教育の潮流となるであります。小中一貫教育に、県内でいち早く取り組んできた本市の先進的な役割を果たすためにも、ここは何としても

「教育委員会のマニフェスト」はしっかりと確立すべきだと思います。

上屋教育長の見解をお伺いします。